

7. (本社+環境部) の取組

(1) 第3次中期環境目標 (2018年度見直し)

環境目標項目		設定単位	基準値	実績値	第4次中期目標値(改訂)	
			2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
二酸化炭素排出量の削減	(全社) *	kg-CO ₂ /年	589,825	575,819	102%	100%
	本社+環境部	kg-CO ₂ /年	570,906	567,193	102%	101%
					598,756	588,331
					581,909	577,416
	電気使用量 (本社)	kWh/年	13,666	14,151	102%	102%
					14,000	14,000
	電気使用量 (環境部; 舟橋 RC)	kWh/年	51,693	54,105	108%	104%
					56,000	54,000
	電気使用量 (環境部; 舟橋第2棟)	kWh/年	25,312	24,890	100%	100%
					25,000	25,000
	電気使用量 (環境部; 第2 RC)	kWh/年	159,955	162,132	100%	101%
					160,000	162,000
	電気使用量計	kWh/年	250,326	255,278	102%	102%
					255,000	255,000
	軽油使用量 (環境部; 収集車)	ℓ/年	71,071	71,934	101%	101%
					72,000	72,000
	軽油使用量 (環境部; 積替車)	ℓ/年	84,277	80,048	99%	100%
					83,000	84,000
	軽油使用量 (環境部; 重機)	ℓ/年	14,050	14,500	103%	103%
					14,500	14,500
	軽油使用量合計(環境部)	ℓ/年	169,398	166,482	100%	100%
					169,500	170,500
	ガソリン使用量 (環境部; フォークリフト)	ℓ/年	2,020	2,680	134%	129%
					2,700	2,600
水使用量の削減		m ³ /年	9,741	7,189	85%	86%
					8,250	8,360
	水使用量 (本社)	m ³ /年	436	322	69%	83%
					300	360
	水使用量 (舟橋 RC)	m ³ /年	776	819	122%	129%
					950	1,000
	水使用量 (第2 RC)	m ³ /年	8,529	6,048	82%	82%
					7,000	7,000
廃棄物排出量削減他						
RC 廃棄率削減 (不燃、プラ、PET)		%以下	17.7	16.7	17.5	17.0
一廃 (オフィスゴミ) 削減活動		チェックシート	100	100	100	100
グリーン購入		チェックシート	100	100	100	100
地域社会との融和		チェックシート	100	100	100	100

* 電気使用の二酸化炭素排出係数=0.513kg-CO₂/kWh (H25年度中部電力実排出係数)

(2) 2018 年度実行環境目標値の考え方

2018 年度は、第 2RC 積替施設の稼働 3 年目となり、生ごみからの悪臭防止施設の電力・水の使用量が定常化したので、必要な目標値の見直しを図った。

① 電力使用量

積替施設の脱臭装置及び脱臭液噴霧に必要な電力使用量は、悪臭防止を図るため、2018 年度節電効果を織り込み、基準値維持とする。悪臭拡散防止策の検討で、一層の節電を図る。舟橋 RC は第 1 工場と第 2 工場の機能分担が明確になった。要員確保のため、積極的に職場作業環境の改善を図る。第 1、工場のみスト冷却を強化するので、2017 年度実績+8%とする。本社も職場環境改善のため、2017 年の基準値+2%増とする。

② 軽油、ガソリン使用量

三重中央開発までの積替車運搬ルートもほぼ確定したので、軽油使用量を 2%減とする。積替施設でのバケット積荷均し作業は、運搬中の荷崩れ防止のため、一層の強化を図る。このため、重機用軽油使用量は 3%増とする。一般の収集車はエコ車の導入、エコドライブ徹底もほぼ限界に達したので、ほぼ現状維持の+1%増とする。

③ CO2 ガス排出量

電気使用の二酸化炭素排出係数は、実排出係数(0.531kg-co2/kWh、中部電力)とする。

④ 水使用量

第 2 RC は積替施設の脱臭装置活性炭洗浄及び脱臭液噴霧水用量を、2017 年度実績を基に見直した。舟橋 RC は夏場の室温維持及び発塵防止用ミスト噴霧のため使用量の増加のため、2017 年度より 16%増を見込むが、一層の節水に努力する。本社は生活水のみであるが、昨年より節水活動を織り込み基準値の 31%減を目標値とする。

⑤ RC 選別廃棄率削減（不燃、廃プラ、PET）

廃プラの定義変更、生活ごみの排出種別変わりにより、RC での分別廃棄率が増加しつつある。現有作業員の努力で、若干の分別廃棄率低下(0.5%)を見込む。

以下 RC 選別廃棄率の定義を再確認する

- a .→廃棄率管理の対象は、カン・ビン・不燃物・容器包装プラ・その他プラ・ペットボトルの 6 種類。
- b .処理量には、回収量に直接持込量が含まれる。持込量は計量困難なため、資源回収量+選別残渣量を処理量としている。
- c..選別残渣というのは、①の対象物 6 種類を選別して、これ以上、「選別する意味がなく残ったもの」の量である。

(3) (本社+環境部) の環境活動計画と評価 (2018年度)

環境目標を達成するための環境活動計画及び活動結果の評価は以下の通りである。

環境目標	環境活動計画の内容	評価	主担当
電力使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ● 休憩室及び作業時間中を除き、昼休みは消灯する ● 定時退社、残業の抑制、体調管理 ● 設定温度を冷房 28℃、暖房 21℃に維持する ● 夏は光を遮断し冷房効率を上げる ● 待機電力（エアコン、パソコン）は、極力使用しない ● リサイクルセンターでは効率的な作業を心掛ける ● 作業ミスによる手戻り作業の防止 ● 機械、設備の電源をこまめに切る 	○ ○ △ △ ○ ○ ○ ○	本社 環境部
燃料(軽油、ガソリン)使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ● エコドライブの実践を行う ● 無用なアイドリング、空ぶかしをやめる ● 経済速度で走る。無駄な荷物は積まない ● 点検・整備をきちんとし、タイヤの空気圧を適正に保つ ● 急発進、急加速、急ブレーキをやめ、適切な車間距離をとる ● マニュアル車は、早めにシフトアップする ● 収集運搬業務において、効率的な運行計画を立てる ● フォークリフトの効率的な使用 ● 適切な車輛整備の実施 	○ ○ △ ○ ○ ○ ○ ○ ○	本社 環境部 建設部
水使用量(総排水量)の削減	<ul style="list-style-type: none"> ● 蛇口をこまめに開閉する ● 蛇口の水量は、適正に保つ ● 洗車の際の節水、洗車時間の短縮 ● こまめな工場床の清掃 ● 散水口のシャワー式の部品に変更 	○ ○ ○ ○ ○	本社 環境部
RCでの選別廃棄物減少	<ul style="list-style-type: none"> ● 収集運搬時の混合積載を極力少なくする ● RC 作業員への分別教育徹底による資源化率向上 ● 市役所を通じての市民への分別強化の依頼 	○ ○ ○	環境部
自社排出一般廃棄物抑制	<ul style="list-style-type: none"> ● チェックシートによる活動の評価 ● 分別ボックスの適正配置による分別徹底 ● 裏面コピーにより紙使用量を削減 ● 使い捨て製品(紙コップ、容器等)の使用抑制 	○ ○ ○ ○	本社 環境部 建設部
グリーン購入	<ul style="list-style-type: none"> ● エコマーク商品の購入を積極的に進める ● 車両修理時に再生部品を積極的に使う ● チェックシートによる活動の評価 	○ ○ ○	本社 環境部 全社
地域社会との融和	<ul style="list-style-type: none"> ● 羽島市役所と共催(分別、リサイクルに関する環境教育に協力) ● リサイクルセンター周辺の環境保全に努める 	× ○	環境部

評価基準：○実行 △ほぼ実行 ×大部分が不実行

(4) 2018年度全社CO₂排出量 (2018年4月～2019年3月)

サイト別	単位	環境目標	実績	達成率(%)	コメント
本社&環境部	kg-co2/年	581,909	577,329	101	建設部本社部門を含む
工事現場	kg-co2/年	16,847	16,454	102	重機軽油使用量減
全社合計	kg-co2/年	598,756	593,788	101	ほぼ全項目達成

* 電力の二酸化炭素排出係数=0.513kg-CO₂/kWh (H25年度中部電力実排出係数)

(5) 2018年度環境目標とその実績 (本社+環境部) (2018年4月～2019年3月)

環境目標項目	単位	環境目標	実績	達成率	コメント
CO ₂ 排出量 (本社&環境部)	kg-co2/年	581,909	577,329	102	0.513kg-CO ₂ /kWh
電気使用量 (本社)	kWh/年	14,000	12,846	109	建設部含む
電気使用量 (舟橋 RC)	kWh/年	56,000	56,588	99	
電気使用量 (舟橋第2棟)	kWh/年	25,000	23,862	105	
電気使用量 (第2 RC)	kWh/年	160,000	155,471	103	
全社電気使用量	kWh/年	255,000	248,767	103	
軽油使用量 (環境部収集車)	ℓ/年	72,000	72,546	99	省エネ車導入
軽油使用量 (三重積替車)	ℓ/年	83,000	82,970	100	三重への積替運搬
軽油使用量 (環境部重機)	ℓ/年	14,500	13,429	108	
ガソリン使用量(環境部フォークリフト)	ℓ/年	2,700	2,732	99	
水使用量の削減	m ³ /年	8,250	8,162	101	
水使用量 (本社)	m ³ /年	300	287	105	生活用水
水使用量 (舟橋 RC)	m ³ /年	950	938	101	粉塵防止、洗車
水使用量 (第2RC)	m ³ /年	7,000	6,937	101	脱臭装置
廃棄物排出量削減他	—				
RC 廃棄率削減	%以下	17.5	16.2	108	不燃、プラ、ペット
一般廃棄物削減活動	(達成率)	100	100	100	チェックシート
グリーン購入	(達成率)	100	100	100	チェックシート
地域社会との融和	(達成率)	100	100	100	チェックシート

(6) (本社+環境部) の環境活動結果の分析&評価

①電力使用量の削減

- 本社は夏の極暑、冬の厳寒のため空調使用量が増加したが、昼休みの消灯やエアコン設定温度の限界設定の取り組みで無事に目標値を達成した。
- 舟橋 RC は、選別コンベヤーの速度を遅くし労働安全に配慮する取組や、夏場の水噴霧量増加、選別量の増加による作業時間増を節電活動で、目標値を辛うじて達成した。
- 舟橋第2棟は、分別作業率向上で目標値を達成した。

○第2RCは、積替場の生ごみ脱臭装置、脱臭剤散布によるファン電力の節電使用により、電力使用量減増を見込んだ目標値を設定した。使用量は計画通りであるが、現状の推移を見てゆく

②運搬車両及び重機の燃料使用量の削減

- 収集車両については、エコドライブ手順書や、エコドライブチェックシートによるエコドライブの徹底を図り目標達成となった。作業負荷低減のためオートマ車を利用しているが燃費が悪いため、再びマニュアル車への切り替えを推進している。その効果もあり目標値を達成した。
- 三重への積替車は、積替え量の確保、最適輸送ルートを選定、エコドライブ等により、目標値を辛うじて達成した。最近ルートの渋滞がひどくなりつつある。今後の推移に留意する。
- 重機の軽油使用量は、春の移転、年末の大掃除に伴う一般廃棄物の発生量が増えて、分別作業の時間が増加したが、作業効率向上で目標値を達成した。
- ガソリン使用量は、スポット回収、RC直接持ち込み量が増加し、分別が必要な不燃物が増えたことにより、フォーク作業が増加し、使用量が若干増加してしまった。

④水使用量削減

- 舟橋RCは収集車の洗車、発塵防止の水噴霧量増のため、増加を見込んだ。汚損の激しい部分の重点洗車や効率の水噴霧で節水に努め、目標値に収めた。
- 第2RCは、積替場の生ごみ脱臭剤散布用希釈水の適正希釈量の目安が付き、ほぼ目標値通りの使用量に収まった。
- 全社的には、夏季の散水や廃棄物荷卸し時の粉塵防止散水等の適正使用に取り組んだ効果もあり、全使用量は減少傾向で、無事に目標値を達成した。

⑤廃棄物の再資源化率向上

- 一般廃棄物は舟橋RCで中間選別している。第1工場はペットボトル圧縮、第2工場では容器包装プラの選別を行っている。溶り法改正により、廃プラ品は再生不可品となり、廃棄品(2次再生工場向け)となる。第2RCで不燃物の分別を実施。ただ不燃物は何が入荷してくるか不明のため、手選別で有価物の取り出しを実行している。選別残渣は手選別効果により、目標値以下を達成した。ただ要員不足のため、選別精度に限界がある。

⑥ 自社排出一般廃棄物削減及びグリーン購入

本社及びリサイクルセンター事務所の一廃は排出量削減、グリーン購入は一年間活動をチェックシートにて評価している。その効果もあり、本社、RCともに良好な成績である。

⑦ 環境出前授業への積極的な協力

環境出前授業は市役所生活環境課と役割分担し出前事業を企画している。ただ残念ながら、本年度は積替施設建設や分別作業に要員を取られ、対応できなかった。生徒を通じての家庭ごみの分別徹底には効果的なため、積替施設の操業が安定したら、**環境出前授業を復活させたい。**

8. 建設現場の取組

(1) 当社の建設現場の特徴

工事件数	小口物件を主体に約 184 件（2018 年度実績）
主な建設現場	② 当社は建築工事と土木工事（造園工事を含む）が、ほぼ半々である。 ③ 市況より小口案件の改修工事が主体である。 ④ 建設工事組織は、受注案件ごとに本社建設部で個別対応。特に現場組織は編成していない
建設現場の具体的な業務内容	① 住宅改修、外壁塗装、室内模様替え ② 公園・街路樹の清掃や維持管理等 ③ 整地、道路工事等の土木工事

(2) 建設現場の中期環境目標

建設現場毎の負荷調査は困難なので、1年間の全工事を集約した中期環境目標を設定する。
受注案件ごとに工事内容が大幅に異なるが、受注動向や前年実績値を参考に、実行目標を設定する。

環境負荷項目	単位	基準値 2016 年度	実績 2017 年度	3 次中期環境目標		備 考	
				2018 年度	2019 年度		
現場	ガソリン	L/年	3,460	3,231	95%	95%	施工管理員の現場 巡回車用
					3,300	3,300	
	軽油	L/年	1,763	1,757	113%	100%	ダンプ・トラック
					2,000	1,750	
	重機軽油	L/年	2,445	1,132	61%	82%	車両系建設機械
					1,500	2,000	
CO2 排出量	Kg/年	22,099	15,083	76%	79%	工事現場の状況で変 動は大きい	
				16,847	17,503		
建設廃棄物リサイクル率	%	100	99	99	99	現状を維持	
建設資材グリーン調達	%	23.6	20.8	21	21	鉄筋、再生砕石使用率	

(環境目標の設定の考え方)

- ① ガソリン使用量は前年実績を維持する。
- ② 工事車両用軽油は、受注動向を参考に目標値を設定する
- ③ 電力・水道水が必要な場合、顧客よりの支給のため使用量は不明である。
- ④ 建設廃棄物関連は、リサイクル不可品(例:石綿)が排出されない限り、100%リサイクルを図る。
- ⑤ 当社主要購入材(生コン、セメント、鉄筋、砕石)量のうち、鉄筋・再生砕石を循環資材と見なし、グリーン調達率を算定する。

(3) 建設現場の環境活動計画

環境目標	主要な環境活動計画	担当
軽油使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> 作業時間や 대기時間、走行距離短縮 運搬物運搬先の状況を把握し、適切な運搬計画の策定 アイドリングストップの徹底 排気ガス、騒音抑制のため、適切な車両整備 	工事現場 責任者
重機軽油使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> 重機の効率的な使用 作業時間や 대기時間の短縮とその間アイドリングストップ 工事種別、方法の事前検討による重機機材の適切な選定 	工事現場 責任者
ガソリン使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には、本社及び環境部の行動計画に同じ 	建設部
建設廃棄物リサイクル率向上	<ul style="list-style-type: none"> リサイクルし易い工法の検討 混合廃棄物の徹底分別による再資源率向上 作業員への分別教育の徹底 	建設部
建設資材グリーン調達率向上	<ul style="list-style-type: none"> 再使用、リサイクルし易い材料の優先的使用 基礎工事における鉄筋・再生砕石促進 合板型枠等の積極的な使用 	建設部

(4) 2018年度建設現場の環境目標と実績

環境負荷項目		単位	計画値	実績値	達成率	備考
CO2 排出量	ガソリン	ℓ/年	3,300	3,169	104	営業車、現場巡回車
	軽油（ダンプ、トレーラー）	ℓ/年	2,000	2,073	96	ダンプ、トレーラー
	軽油（重機）	ℓ/年	1,500	1,395	108	車両系建設機械
	CO2 排出量	kg/年	16,847	16,459	102	工法の変動による
その他	建設廃棄物排出量	t/年	338	338	100	目標値=実績値
	リサイクル率	%	99	100	100	石綿の排出なし
	資材グリーン調達率	%	21	1.3	6	資材調達量=188 t

(5) 建設現場の環境活動実績の評価

- ① ガソリン使用量はここ数年連続して使用量は減少しているが、本年度もほぼ目標値に内に収まった。現場への確かな指示を出すに必要な適切な量である。今後も目標値を維持する。
- ② 車両及び重機の軽油使用は、工事種別や大規模工事の変動により、大幅に軽油使用が変動する。両者合わせての使用量は、ほぼ目標値を達成した。
- ③ 工事案件によりコンクリートガラ排出量は大きく変動する。本年度は建設廃棄物排出量が減少したが、100%リサイクルは達成できた。100%維持する為、分別作業の徹底に取り組んだ。
- ④ 資材グリーン調達率は、対象資材を使用する案件が大幅減少し、目標は大幅に未達となったが、有効な是正方法は特になし。建設現場の環境活動は、目標値達成に一喜一憂するのではなく、現場への環境意識の活性化を目的に、今後も活動を継続する。

(6) 建設現場の環境への取組状況 (2018年度)

H30年度に完工した300万円/件以上の工事現場を対象に、当社独自の環境配慮チェックリストで、工事現場の環境への取組活動を評価した。

①評価対象工事件名

NO	工事件名	工事内容	工事高	期間	延人数	直協区分
1	A小学校トイレ改修	給排水工事他	A	3か月	B	直
2	A小学校屋内運動場改修	屋根防水工事他	A	3か月	B	直

○工事高 A：1000万円/件以上、B：1000万円/件未満、C：300万円/件以上

○延人員(協力会社を含む) A：100人以上、B：30人以上、C：30人未満

②建設現場の環境への取組の自己チェック結果

チェックシートによる点数=Σ(5点法による自己評点/評価対象項目*5点)

NO	車両系建設(燃料)		建設廃棄物		現場の環境配慮		資材グリーン調達	
	点数	達成率	点数	達成率	点数	達成率	点数	達成率
1	5/5	100	19/20	95	24/25	96	19/20	95
2	4/5	80	18/20	90	23/25	92	19/20	95
H30年度	9/10	90	37/45	82	47/50	94	38/40	95
H29年度	8/10	80	39/45	87	46/50	92	38/40	90
H28年度	48/55	87	45/50	90	76/80	95	57/60	95
H27年度	47/55	85	63/70	90	95/100	95	57/60	95

③環境への取組の自己チェック

工事責任者による、工事竣工直後の自己評価は下記のとおりである。

- 自己チェックを継続的に実施しているため、環境活動取組内容が明確になり、環境への意識が浸透した。評価項目もほぼ85%以上を維持しており、良い傾向が続いている。
- 自動車燃料(軽油またはガソリン)使用は、資材輸送時のエコドライブが実施されている。毎年確実に上昇しているが、本年度は90%と自己評価している。
- 建設廃棄物排出時、マニフェストの確実な発行、分別の励行、置き場表示等に細心の注意を払い適正処理を実施している。また、排出抑制に関する工法に検討があると評価している。
- 工事現場は大半が市民監視下での工事であり、現場の環境配慮には最大限の注意を払っている。施主からも当社の工事品質には高い評価をいただいている。
- グリーン調達では、下請け業者へのエコマーク製品やリサイクル製品の優先使用の周知徹底が必要と判断している。さらに耐久性の視点も採用条件として購買に努力する。

9. 次年度の取組

(1) 第4次中期計画の見直し (2019年度)

(増減は基準値との比較)

環境目標項目		設定単位	基準値	実績値	2019年度環境目標値	
			2017年度	2018年度	実行目標値	中期計画
二酸化炭素排出量の削減	(全社) *	kg-CO ₂ /年	589,825	593,788	102%	102%
	本社+環境部	kg-CO ₂ /年	570,906	577,329	102%	102%
					584,045	584,301
電気使用量	電気使用量 (本社)	kWh/年	13,666	12,846	99%	102%
					13,500	14,000
	電気使用量 (環境部; 舟橋 RC)	kWh/年	51,693	56,588	116%	104%
					60,000	54,000
	電気使用量 (環境部; 舟橋第2棟)	kWh/年	25,312	23,862	119%	99%
					30,000	25,000
	電気使用量 (環境部; 第2 RC)	kWh/年	159,955	155,471	101%	101%
					160,000	162,000
	電気使用量計	kWh/年	250,326	248,767	105%	102%
					263,500	255,000
	軽油使用量 (環境部; 収集車)	ℓ/年	71,071	72,546	101%	101%
					72,000	72,000
軽油使用量 (環境部; 積替車)	ℓ/年	84,277	82,970	102%	100%	
				86,000	84,000	
軽油使用量 (環境部; 重機)	ℓ/年	14,050	13,429	100%	100%	
				14,000	14,500	
軽油使用量合計(環境部)	ℓ/年	169,398	168,945	102%	100%	
				172,000	170,500	
ガソリン使用量 (環境部; フォークリフト)	ℓ/年	2,020	2,732	149%	129%	
				3,000	2,600	
水使用量の削減		m ³ /年	9,741	8,162	76%	86%
					8,250	8,360
水使用量	水使用量 (本社)	m ³ /年	436	287	69%	69%
					300	300
	水使用量 (舟橋 RC)	m ³ /年	776	938	122%	129%
				950	1,000	
水使用量 (第2 RC)	m ³ /年	8,529	6,937	11%	76%	
				1,000	7,000	
廃棄物排出量削減他						
RC 廃棄率削減 (不燃、プラ、PET)	%以下	17.7	16.2	17.0	17.0	
一廃 (オフィスゴミ) 削減活動	チェックシート	100	100	100	100	
グリーン購入	チェックシート	100	100	100	100	
地域社会との融和	チェックシート	100	100	100	100	

電気使用の二酸化炭素排出係数=0.486kg-CO₂/kWh (H28年度中部電力実排出係数, H28.12.27)

(2) 2019年度目標値見直しの考え方

(特別の注記がない限り、増減は2017年度基準値との比較である)

第4次中期は、第2RC積替施設の悪臭防止施設稼働のため、電力・水の使用量が増加したが、2019年度目標値は、全般に2017年度の基準値の若干の微修正に留める。

① 電力使用量

積替施設の脱臭装置及び脱臭液噴霧に必要な電力使用量はほぼ把握できた。適切な悪臭拡散防止策の検討で、基準年スライドとする。舟橋RC及び第2棟は選別強化及び職場の夏場対策で16%、19%程度の増加を見込む。本社は2017年度から、冬季防火のため電気暖房を維持するが、節電努力を継続し、2019年度は1%程度の削減を見込む。

② 軽油、ガソリン使用量

三重中央開発までの最短運搬経路の渋滞による経路変更が多発。今後も渋滞は継続が想定されるため、軽油使用量を86,000ℓに増加させる。積替施設でのバケット積荷均し作業の強化も継続するので、重機使用量も基準年の横這いとする。一般収集車はエコ車の導入、エコドライブ徹底も限界に達したので、2018年度を維持とする。

③ CO2ガス排出量

電力使用量の増加で、若干昨年度より排出量増加となる。

④ 水使用量

第2RC積替施設は、運搬中の悪臭抑制のため脱臭強化を図るが、散布用水の節水努力（従来垂れ流しであったものを適正水量まで絞る）で基準年より一気に7000ℓ（87%減）の節水を見込む。舟橋RCは発塵防止用散水のため、基準年より使用量増170ℓを見込む。

⑤ RC分別廃棄率削減（不燃、廃プラ、PET）

廃プラの定義変更、生活ごみの排出種別変わりにより、RCでの分別廃棄率増加を、現有作業員の努力で抑制している。分別廃棄率は中期計画通り17.0%とし、一層の削減を図る。

(3)建設現場の次年度環境目標

2018年度実績値を参考に、3次中期環境目標の見直しを行う。(増減は2016年基準値との比較)

環境負荷項目	単位	基準値	実績	2019年度環境目標		備考	
		2016年度	2018年度	実行目標	中期計画		
現場	ガソリン	L/年	3,460	3,169	95%	95%	施工管理員の現場 巡回車用
					3,300	3,300	
	軽油	L/年	1,763	2,070	113%	100%	ダンプ・トラック
					2000	1,750	
	重機軽油	L/年	2,445	1395	61%	82%	車両系建設機械
					1,500	2,000	
CO2排出量	Kg/年	22,099	16,451	76%	79%	工事現場の状況で変 動は大きい	
				16,847	17,503		
建設廃棄物リサイクル率	%	100	100	99	99	現状を維持	
建設資材グリーン調達	%	23.6	1.3	21	21	鉄筋、再生砕石使用率	